

ネーミングライツ調印式

「ふるさと産業文化館」の愛称が

「**日本キャンパックホール**」に！

去る2月20日に、明和町と(株)日本キャンパック様の間で、ネーミングライツ調印式が行われました。ふるさと産業文化館へ同社の藤本社長にお越しいただき、協定書にお互いサインし、固い握手を交わしました。

このネーミングライツとは、公的施設などの呼び名をスポンサー企業が決められるもので、日本語では「愛称命名権」と呼ばれております。愛称命名権を企業に与えることにより、企業にとっては宣伝効果があり、施設所有者にとってはそのスポンサー企業より資金を得られる利点があるわけです。これは米国から伝わったビジネス手法で、日本では、2003年の「味の素スタジアム」(東京調布市にある元東京スタジアム)を機に各地に広まり、群馬県では「正田醤油スタジアム」(元群馬県営陸上競技場)を皮切りに、ベイシア文化ホール(群馬県民会館)、上毛新聞敷島球場(群馬県立敷島公園野球場)やALSOKぐんま総合スポーツセンター(群馬県総合スポーツセンター)がネーミングライツとして有名です。市町村では、中之条町が株式会社バイテック(太陽光発電会社)に文化ホールの愛称命名権を与えております(バイテック文化ホール)。

明和町では今回、ふるさと産業文化館の愛称命名権を(株)日本キャンパック様に平成30年4月から5年間買っていただく協定を結びました。(株)日本キャンパック様は、長期の支援を表明してくださっておりますので、1回のみでなく、5年×2=10年 さらにそれ以上の長期になることを期待しております。



↑写真 (キャンパック藤本社長と明和町長の握手)

従いましては、平成30年4月より「ふるさと産業文化館」の愛称が、「**日本キャンパックホール**」になります。看板等の付け替えも(株)日本キャンパック様が行います。このほかにも「明和の子育て支援」

を方針として多数の支援をいただいております、例えば、子育ての区切りである成人式にお祝いとして記念品をいただいたり、子供会のかるた大会やドッチビー大会への後援で参加賞や飲物を用意していただいております。また、こども園バスのラッピング広告も行う予定であり、そのほか多数の支援事業と合わせると、総額で数百万円に相当する金額を将来にわたりご支援いただけることとなります。もともとは、(株)日本キャンパック様が会社のCSR活動（企業活動を通じて町民、地域や社会の要請に積極的に貢献する考え方）の一環として行うものです。本町といたしましては、CSR活動として初めてネーミングライツの実施や行事への協賛を行っていただけの企業の出現に、諸手を挙げて大歓迎をしております。

(株)日本キャンパック様は1974年(昭和49年)に本町へ進出して以来、半世紀にわたり本町と苦楽を共にしてきました。今や、本町に無くてはならない企業です。今回の(株)日本キャンパック様の英断に深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

平成30年3月5日

明和町長

富塚もとすけ